

「気づいたら“ちょこっと”アクション！犯罪を生まない社会へ」 動画視聴座談会

女性が遭いやすい、痴漢や盗撮、危険な勧誘、つきまといなどについては、防犯意識の啓発だけではなく、現場に居合わせた第三者が、犯罪を見て見ぬふりをせず、さりげない行動により被害を未然に防止することが大切です。

今回、現場に居合わせた第三者が被害を未然に防止するためにとり得るさりげない行動を紹介する動画を作成しました。

この動画は、この啓発内容を知ってもらいたい「20代の方々」に色々と意見を聞きながら作成していきました。

今回、完成した動画を20代10人の方々に見てもらい、動画の感想や、犯罪の未然防止についてどう感じたか、語ってもらいました。



動画を視聴した感想として・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

動画を見た率直な感想を聞かせてください。

- A：電車内で流れていたりすると、犯罪を許さない気運醸成につながるかな。
- B：行動事例の具体例がたくさんあって、良かった。
- C：現場に居合わせた第三者がする行動のイメージが沸かなかったけど、できそうなものも多いことが分かった。
- D：『少しの行動で犯罪を防げる』というのは良いコンセプトだと感じた。
- E：痴漢は満員電車のケースもあるが、空いているときもある。空いているケースも取り上げたのは、意義があると思った。
- F：もう少し犯罪を防ぐということを加害者対応も含めて描いてもらいたかったが、犯罪を防ぐ取組の一部を示した動画なんだな、と理解した。

また、犯罪事例を描いているにしてはちょっと「少しポップすぎるかも、」という意見も。。



行動事例について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

行動事例については、事前に学生らにヒアリングを行い、できそうなものを取り上げました。

これならできると思った行動は？

A：加害者の前に立つとかはできそう。



B：盗撮事例で、盗撮されそうな人と加害者の犯人の間に入りこむのはできるかな、



C：危険な勧誘の「道を尋ねる」とかは実際にやりやすい。

D：ただ、盗撮については、被害者が気づいていないこともあるので、その場合、突然目の前に現れたら、ちょっとびっくりするかもしれない。



E：あと動画では描かれなかったけど、満員電車だとできるのは、じっと見るとかかな。

電車の中は結構、声をかけにくい環境だし。

逆にどういう行動が難しそうだった？

A：危険な勧誘の友だちのふり。被害者がどこまでこちらの演技にのってくれるか分からないのがちょっと不安。自分は見た目も大きい方なので、声をかけると、むしろ怖がられるかもしれない。



B：警視庁「デジポリス」のアプリを知る機会になった。
ただ、スマホのメモ帳機能の行動もそうだが、加害者に見られない状況を作らないといけないな、と思った。
加害者が自分に危害を加えるかもしれないから。



C：ちょっと怪しいと思ったときに、行動するのはやはり勇気がいる。
どういう気持ちになれば、行動にうつせるのかな、と動画を見てからずっと考えている。
D：声をかけた人が「変な人」と思われないぐらいこの取組が広がればいい。
もし違っても「LOOKUPありますからね～」みたいな。
E：犯罪に遭いそうな人を見たときに、他人事として見るのではなく、「自分事」として捉えることかな、と。誰かの姉妹であったり、彼女や友人であると想像し、自分に置き換えさせることで意識が変わるかも。

動画を見て気になったり考えたことは？

(加害者への対応)

A：今回は、被害を未然に防止するための第三者の行動変容の動画なので、描いてないと思うが、時と場合によっては「加害者に声をかける」とか「証拠の写真を撮る」などもあっていい、と思う。

.....

◎【専門家に聞いてみました】(東京都立大学法学部教授 星周一郎氏)

～ リスクの高い行動は極力避ける ～

Q1 今は、だれでもすぐ動画や写真を撮ることができ、証拠を残すこともできます。
一方、それがトラブルになることもあると思いますが、その点についてどう思われますか？

A1 加害者本人はもちろん、その現場の状況を分かるように直接撮影をするというのは、被撮影者に対する刺激(インパクト)が大きすぎるといえます。
逆上されて、さらなるトラブルを招く事態は容易に想定されますので、自ら証拠収集をするのではなく、「通報」という行動を起こすことが良いでしょう。

＜参考＞当課で実施している「痴漢なくそう隊」説明ページにも下記のとおり記載

リスクの高い行動について

疑わしい行動をしている人をいきなり取り押さえる、痴漢行為を告発するなどの行動は冤罪問題に発展するリスクも高く、相手とのトラブルにつながる可能性もあります。

本事業はご本人や被害者の方の安全が第一ですので、加害者と思しき人を直接刺激するような行為は極力避けてください。

https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/tomin_anzen/chian/mijikanahanzai/chikanbokumetsu/chikannakusoutai.html

Q2 SNS等で動画を拡散している人もいますね。

A2 「私人逮捕系Youtuber」といった騒動もありましたね。

こういった「仲裁」「通報」を、SNS等の「コンテンツ」とする人が一定数おり、その場での事象が広く拡散されることもあります。

被害者のプライバシーの利益に対する侵害を及ぼす（また、加害者であっても保護されるべきプライバシーの利益はあります）など、別の新たな問題が生じうるように思います。

.....

（被害者目線に立って考えたときに）

A：被害者側の立場として考えると、被害にあったときに、そばの人が「一緒に駅員さんのところにいきませんか」と声をかけてくれれば気持ちが楽になる。

B：何かさそれさうだけど、「これは犯罪ではないかもしれない」と思って、声に出しにくい面もある。そのあたりを考えると被害を声に出すのは難しい、と感じている。

.....

◎【専門家に聞いてみました】

（一般社団法人スクールセーフティネット・リサーチセンター（SSRC）代表理事
元東京成徳大学教授 田村節子氏）

～ 被害者への声かけは言い方に気を付ける必要あり ～

Q1 今回の動画では「さりげない行動」がどういうものか紹介することがメインでしたが、実際にその場にいる被害者の方に、声をかけるとしたら、どういう点を気

にかけた方が良いですか？

- A1 被害に遭った人に非があるような言い方に気をつける必要があります。
よかれと思う声かけが相手を非難しているように取られるケースがよくあるからです。
たとえば、ノースリーブを着ていた時に、「次からはカーディガンを羽織った方がいいかも」と言われると、「ノースリーブを着てたから私が狙われたんだ」と、責められた感じがしてしまいます。正論が相手を追い詰めてしまう可能性があることに注意を払う必要がありますね。

Q2 具体的にはどういう言葉をかけた方がいいですか？

- A2 まずは、「怖かったね。嫌な気持ちになったね」など気持ちに共感します。
そのためには助言等はいったん置き、よく話を聴いてくださいね。
自分の嫌な気持ちを十分に吐き出すことができることが理想的です。
その後、「どうしたいか（駅員さんの詰め所や交番に行くなど）」を聞き、本人の気持ちを尊重しながら一緒に行動してあげるとよいでしょう。

.....

（男性の被害者の事例）

- A：セリフとしては、「年齢も性別も関係なく被害～」というものがあつたが、男性の被害者がいなかった。
男性が被害にあってしまう事例も今後紹介した方がいい。
B：女性だから、男性だから、というより、被害を受けて困っている人を助けるのは当たり前。ただ、一方で男性についてはあまり認知されていなくて「痴漢にあつた」と言っても、ふざけている、と思われてしまうこともある、と思う。こういう問題もあるんだよ、という点を今後もっと啓発してほしい。



.....

◎【専門家に聞いてみました】

（一般社団法人スクールセーフティネット・リサーチセンター（SSRC）代表理事
元東京成徳大学教授 田村節子氏）

～ 真剣に聞き、共感する態度が必要 ～

- Q1 痴漢等にあつてしまった男性に対して声をかける際に特に気を付けた方がいい点を教えてください。

A1 性被害については当事者がなかなか言えず、人知れず悩むことが多いです。

そのため、痴漢被害にあったことを知ったり、打ち明けられたりしたら、真剣に聞き共感する態度が必要です。

「あなたの言っていることを信じる」「辛かったね。理不尽だったね」と、しっかりと受け止めます。そして（本人は言いにくいことが多いので）代弁者となって被害を信頼できる人に伝える必要があります。

男性の性被害は、先ほどの話にもあったとおり「ふざけている」とまわりに軽視されたり、否定されたりすることもあるため、継続して寄り添っていくことが求められます。

.....

（人の視線について犯罪の抑止力）

A：犯罪の抑止という意味では、防犯カメラは効果的だが、人の視線、というものも効果的かと思う。こういう取組があって、人の目もあるんだよ！というのは一つのアピールになると思う。

.....

◎【専門家に聞いてみました】（東京都立大学法学部教授 星周一郎氏）

～ 間接的な人の視線が犯罪抑止効果につながる場合もある ～

Q3 公共空間における「人の視線」の犯罪抑止の効果はどれくらいあるのでしょうか。

A3 「人の視線を感じることで、違法行為を抑制する」という要素は、どういう人か、どういう文脈での行動なのか、によって相違すると考えます。

Q4 犯罪抑止、といえば、「防犯カメラ」の話が出てくるときもありますが、

A4 防犯カメラ普及の黎明期、防犯カメラに防犯効果があるか否かが盛んに論じられましたが、これは問いとして成立していないと考えます。居酒屋での喧嘩が高じた暴行・傷害などは、カメラはおろか「人の視線」があっても生ずるものです。

他方で、職業的な窃盗犯などは、防犯カメラの有無を調べてから犯行を行うわけですので、防犯カメラの効果はあります。それと同様で、一瞬頭に血が上っても「人の視線」があることで、抑制ができる、というタイプの人、そういった状況、もあるのだらうと思います。つまり「効果がある場合もあれば、ない場合もある」ということではないでしょうか。

Q5 人の視線があることで抑制できるタイプの人もある、ということですね。

A5 間接的な「人の視線」、すなわち「犯罪行為をしていることが周囲に知られる」

ということを意識させる、ということが「犯罪抑止効果」につながる場合もある、ということになると思います。具体的にどういう場面でどういうアピールが良いかは難しいところではあるかと思えます。

.....

今後の追加事例について.....

今回は広告用動画も含めて短編・長編あわせて13本の動画を作成しました。
今後新たに動画を作るとしたら、どういう内容を盛り込んだら良いと思いますか？

- A：男性の被害者の事例以外だと、知り合い同士のケース。
知り合い同士だからその後のことを気にして声をかけられない、というのもある。
そういうときに、どういうことをしたら良いのか教えてほしい。
- B：他にも第三者としての行動事例はあると思う。みんなが気づきそうで気づけない
行動事例を紹介する動画を作ってほしい

効果的な広報展開について.....

動画の広報としては、デジタルサイネージや電車内広告、WEB広告を実施しましたが、他にどのような広報を行うと、動画を見ようと思いますか？

- A：やっぱりSNS。
あと、大学生も自分自身で発信をしたり、活動をしている子もいる。友達から「こういうことに関わっているんだ」という話を聞いたら、ちょっと興味を持てるかも。
- B：カラオケとかで広告を流すのもいい。
- C：著名人と一緒にこの動画をみてその感想を言い合う動画を広告として流すのも良い。

最後に、「シンボルマークについて」.....

若年層が身につけたくなる「可愛さ」や「POPさ」を意識して作ったシンボルマーク。
動画にも登場したシンボルマークについて、どう感じましたか？

- A：分かりやすく親しみがもてるシンボルマーク。ポスターとかでも展開できたら、と

思う。

B：このシンボルマークをスマホ等につけて、「私は性加害を見逃さない！」的な意思主張のマークになれば、助けられる人も安心することができる側面があると思う。

C：さっきも「この見た目だから怖がられるかも……」という人がいたけれど、このマークを身に付けていることで、「あ、この人は大丈夫な人だ……」と思えると良い。

